

平成21年度卒業（修了）生の 就職・各種国家試験 合格状況について

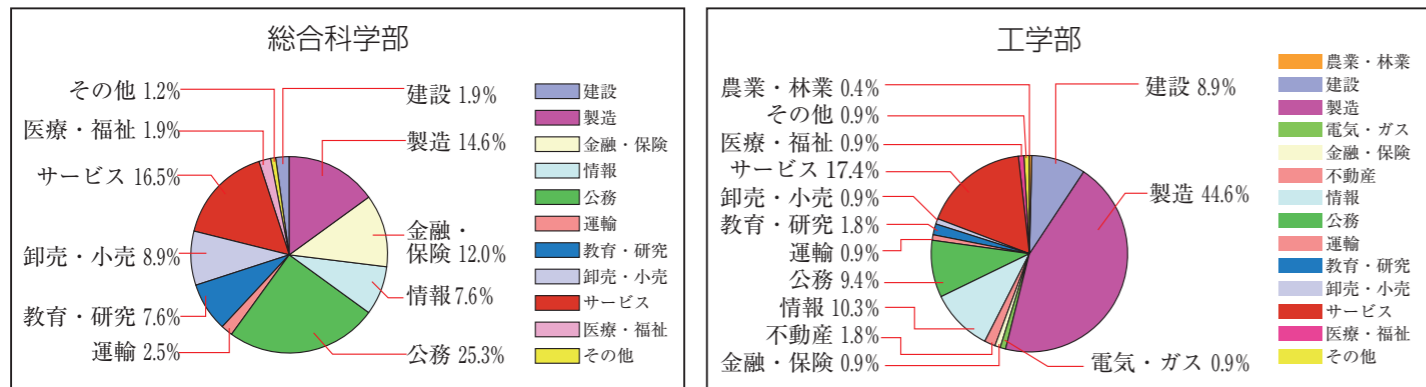
平成21年度卒業（修了）生の状況等を以下に示します。
就職困難な社会情勢の中、平成21年度本学卒業（修了）生の就職率は91.8%となっております。

●2009年度 学部卒業生 進学・就職状況

	総合科学部	医学部			歯学部	薬学部	工学部	
		医学科	栄養学科	保健学科			昼間	夜間主
卒業生数	261	98	52	140	46	45	579	48
進学者数	60	0	29	31	0	38	350	12
その他	28	4	0	4	2	4	17	6
就職希望者数	173	94	23	105	44	3	212	30
就職者数	158	94	19	105	44	3	199	25
就職率	91.3	100	82.6	100	100	100	93.9	83.3

2010年5月現在

●学部卒業生（医歯薬以外）の産業別進路先



●2009年度 各種国家試験等の合格状況

試験種別	合格者数
医師免許	99 (93.4% 11位)
歯科医師免許	51 (85% 6位)
薬剤師免許	19 (47.5% 2位)
管理栄養士免許	43 (82.7%)
看護師免許	67 (100%)
診療放射線技師免許	33 (91.7%)
臨床検査技師免許	20 (90.9%)
助産師免許	20 (100%)
保健師免許	67 (87%)

()は合格率及び医師免許、歯科医師免許、薬剤師免許については国立大学での順位
平成18年度の改正学校教育法及び薬剤師法の改正により、平成21年度新たに薬剤師国家試験受験資格を取得した者は旧課程卒業生(5名)のみであったため、合格状況は旧課程卒業生と既卒者のものを計上しています。

試験種別	合格者数
国家公務員 II種	21 (総合科学部8、工学部13)
地方公務員	33 (総合科学部17、工学部16)
教員免許 中学校	50 (総合科学部50)
高校	102(総合科学部80、工学部22)
養護教諭	10 (総合科学部10)

●2009年度 大学院修了者 進学・就職状況卒業生数

	人間・自然環境研究科	医科学教育部	栄養生命科学教育部	保健科学教育部	薬科学教育部	工学研究科 先端技術科学教育部
修了者数	35	9	18	18	59	315
進学者数	3	5	3	2	8	17
その他	8	0	0	0	3	22
就職希望者数	24	4	15	16	48	276
就職者数	22	2	14	16	48	270
就職率	91.7	50	93.3	100	100	97.8

●博士(博士後期)課程修了者

	医学研究科 医科学教育部	栄養生命科学 教育部	歯学研究科 口腔科学教育部	薬科学教育部	工学研究科 先端技術科学教育部
修了者数	16	6	4	14	42
進学者数	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	8	34
就職希望者数	16	6	4	6	8
就職者数	14	6	3	6	4
就職率	87.5	100	75	100	50

大学院重点化の思い出

前福山大学 学長

牟田 泰三 むたたいそう



「大学院重点化」という言葉を聞いても、若い人達の中には「それ何のこと？」と聞き返す人が多くなってきたように思います。もうそれほどはるかに昔のことになってしまったのでしょうか。この言葉が脚光を浴びたのは、1990年代初頭で、東大や京大が先陣を切ってこの重点化策を推進したこのことでした。

この動きは、文部科学省が、著名な大学は大学院教育に重点を移して、学士課程教育は他の大学に委ねるようにならなければならないようにしようという考えに立って進めようとしたものでした。

かつて、国立大学では学部を基礎にして教育研究組織が作られており、大学院は学部に加わっていました。従って、教員は学部に所属し、大学院教育は兼務として行

うことになっていました。(もちろん、今でもこの方式がとられている多くの大学があります。)これを教員の所属を大学院に移すことによって、より研究の現場に近い大学院教育が出来るようになり、そういう大学では大学院学生一人あたりの予算(積算校費)は25%増とすることにしました。

そこで、東大や京大だけでなく、多くの主要大学が大学院を改組して予算25%増を目指したのです。

広島大学でも大学院重点化を目指して理学部と工学部がいち早く動きました。大変困難な過程を経ながら何とか大学院重点化に漕ぎ着けたのが1998年のことでした。広島大学では、全学大学院重点化を目指すスローガンを掲げていました。なかなか進まず、そこをうするうちに、大学院への教員組織の移行はするけれども、大学院生積算校費の25%増はなしとする「大学院講座化(部局化)」という考え方が広まり、その後の大学院重点化は大学院講座化という形に進められていきました。

全学大学院講座化は、いろいろな困難を伴いながらも、ほぼ全学部にわたって進んでいきましたが、唯一、教養教育の主たる担当部局と位置づけられていた総合科学部が最大の壁にぶち当たりました。

教養教育を担当する部局に大学院講座化が適切な措置であり得るのかということでした。そこで、私達は、総合科学部は教養教育のみを行っているわけではない。総合科学部という学問を研究し、そこで教養も持っている。従って大学院の講座化は必要である。ただ、教養教育という余分の負担があるから、大学院の負担を軽減するために大学院学生定員を少なくするという提案をしました。

そのような苦勞を乗り越えて広島大学では、やっと2006年に最後の大学院講座化が完成しました。

全国的にも教養教育を主たる担当とする部局を持った大学が幾つかあり、徳島大学では奇しくも学部名称も一緒です。大学院講座化を行われる時はきっと広島大学と同じような苦勞をされるだろうなと思っていました。

徳島大学総合科学部の日置善郎教授は私が京都大学助教だった頃大学院学生であった方で、賢明にも上記の問題点に早くから気づいておられ、私に問い合わせてくれました。私も、広島大学総合科学部の苦闘をそのまま終わらせるのでなく、何か次への展開に役立てたいものだと思っていましたので、両大学の総合科学部が協力

略歴 出身地： 福岡県久留米市(1937年6月1日生まれ)
1960年 九州大学理学部物理学科卒
1965年 東京大学大学院数物系研究科物理学専攻修了 理学博士
1965年 京都大学理学部助手
1971年 京都大学基礎物理学研究所助教授
1982年 広島大学理学部教授
1991年 広島大学評議員
1995年 広島大学理学部長
1999年 広島大学副学長
2001年 広島大学学長(2007年退任)
2007年 福山大学学長(2010年退任)

し合って共に発展することを願っていたところでした。

それから両大学の総合科学部関係者の情報交換、交流が急速に深まり、広島大学総合科学部の体験が、徳島大学総合科学部大学院講座化に向けて、いくらかのお役に立てたのではないかと考えています。徳島大学における大学院講座化のご努力の結果は皆さんご存知の通りで、まことにご同慶の至りです。

近年の徳島大学の躍進ぶりを外から眺めさせて頂いて、心から頼もしく思っており、ますますのご発展を期待しています。